騎楽の春に酔ひしれて ***こり はる ** 美想にあこがるる身は うましおもひ 千ひろの海の真珠取 またまと 我が運命こそ青渦 わ ける 'n

逆まく波を闡きゆく

る人を夢とはみつつ

永遠に華さく水底ふかく

美珠こそわれの生命なれて重の潮の妙音にひびくなく、とほどでは 掌に獲し光栄と喜悦と露のしづくの真珠またま

神秘の巌に嫦娥の

遠くはるけき師の君に 団欒の音をばうつし伝へむ 契りゆかしき春鳥 幸漂蕩ひてゆく水や 彩雲低く恵 うるほす柳の萠黄 の家に 0

君端祥の歳なれや 社会高くしらべ祝はひとのよたか 心の酔に舞歌を 一壺の酒の汲む夢淡くいっこ 薫る樹陰に花仄みえて おぼろの春の宵 む